

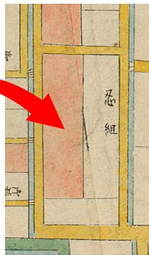
7. 井原と忍者

福井藩には慶安2～慶応2年（1649～1866）の期間「忍之者（忍組）」と呼ばれる忍者が10人置かれていました。

関東地方で機敏の者から忍者を選抜し、忍之者の制度を整え、最初の忍之者預りの任に就いたのが軍学者の井原番右衛門でした。

忍之者は、忍び御用（藩内および他国での諜報活動）や義経流軍学・半弓などの稽古、参勤交代の御供、武具土蔵の武具の管理などを職務としました。

また戦時には、鎧甲冑を身に着け、他の藩士とともに出陣することが定められていました。実際に幕末には、黒船に対する江戸湾警備や長州戦争のために出陣しています。



慶応期（1865～68）福井「御城下之図」

（A0143-21342 松平文庫・当館保管）

忍之者は一まとまりに集住しており、屋敷の裏には半弓を稽古するための矢場が設けられていました。